

自己評価結果公表シート

2019年度

明星幼稚園

1. 園の教育目標

元気なよいこの育成

- 自ら考え主体的に行動できる。
- 周りの人の気持ちがわかり集団生活の中で生きる力を身につける。

2-1. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画(全体事業計画)

(1) 就学に向けて

小学校就学に向けて、確かな学力につながる学びの芽生え、健康・基礎体力につながる「生活習慣・運動」を身に付け、社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」及び「協同の精神」の芽生えを促します。

(2) 一貫教育の推進

明星小学校との連携事業を活用し、幼小合同研修会等も実施して相互理解を深め、一貫教育の充実へと結び付けます。

(3) 教育目標達成に向けて

オリジナルのルーブリックを策定し、卒園までの3年間の成長を可視化し具体的な教育活動へ生かします。さらに教員研修により各教員が課題意識を持ち、教育力向上を目指します。

(4) 心の教育

園児に小動物（熱帯魚、小鳥等）を身近に感じさせることで、興味を持たせ心の安定を図ります。また心の成長を促すために各担任や園長講話では園児に分かりやすく命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝え、保護者に対して幼児期に非認知能力を育成する重要性を説いていきます。更に凝念教育（「みなしずか」）を毎日の保育の中で実践し、その目的や成果を園児や保護者へ園便り等を通じて伝えていきます。

(5) 子育て支援

子育て支援として、未就園児対象「ひよこクラス」、1歳児対象「びよびよクラスファースト」をさらに充実させます。2歳児プレスクール「びよびよクラスセカンド」を継続して行い、次年度入園に向けての準備をしていきます。

(6) 教育現場における園児のリスク管理及び個人情報の管理体制強化

危機管理マニュアルに基づいた訓練・研修を継続実施するとともに、個人情報保護についての理解を深め、その留意事項を日常業務に生かしていきます。

2-2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画(学年毎の計画)

<p>(1) 年少 保育者や友だちと一緒に遊んだり活動することを喜ぶ。</p> <p>①自分の思いを言葉で相手に伝え、他者との関わり方を知る。</p> <p>②友だちとの共同活動を通し、友だちと一緒に進む楽しさや喜びを知り、進んで取り組もうとする</p> <p>③体験から得た発見、喜び、感動を友だちや保育者と共有し、新しいことに興味・関心の幅を広げる</p>
<p>(2) 年中 保育者や友だちと関わってのびのびと活動し、ともに過ごす楽しさを味わう。</p> <p>日常生活に必要な習慣を身につける。</p> <p>①遊びを含む様々な活動の中で自ら考え新しいことを創造し、表現する力を伸ばす</p> <p>②困っていたり、泣いている友だちに思いやりを持って接する</p> <p>③みなしずかで心を落ち着かせ、その後の話が最後まで聞ける</p>
<p>(3) 年長 友だちと一緒に園生活を十分に楽しみ、意欲的に遊びや活動に取り組むとともに主体的に行動して充実感を味わう。</p> <p>①日々の生活の中での発見や気づきを友だちに発信し、新しいことを創造したり表現し合う意欲を伸ばす</p> <p>②周りとの協調し、相手の考えを共有して意欲的に活動する中でリーダーシップを発揮する</p> <p>③小学校進学に向けて円滑な移行を目指し学びに向かう力を育てる</p>

3-1. 評価項目の達成及び取組状況(全体事業計画)

評価項目	結果	理由
(1) 就学に向けて	A	<p>保護者アンケート結果より</p> <p>○「就学に向けて学びにつながる意欲が芽生えましたか」の設問では年長での満足度（とてもそう思う・そう思うの合計：以下満足度とする。）は高く、目標をおおむね達成できており、保護者が園児の成長を実感できていると考えられる。「健康・基礎体力につながる生活習慣や運動」「社会生活において望ましい態度や習慣」「他者への思いやり」及び「協同の精神」の芽生え、においても満足度が高く、明星幼稚園の教育方針が支持されていると感じるとともに、今後も保護者の期待に応えるべく教員研修を充実させ、目的を達成するためのカリキュラムマネジメントが重要と考える。</p>
(2) 一貫教育の推進	C	<p>○園児・保護者に向けての活動においては、学年を追うごとに明星小学校理解の満足度が高まっている。保護者の明確なニーズを考察し、今後は小学校との協議の上、連携強化に向けて計画的に施策を実行する必要があると考える。</p> <p>○明星小学校の教員との合同研修を定期的開催することで相互理解が進み、一貫校としての連携が醸成されてきている。全国で就学前教育が叫ばれ、幼小のなだらかな接続が求められている中、この事実は例えば内部進学のアピールポイントとして外部に発信していくようにしている。</p> <p>○2歳児プレスクール「びよびよクラスセカンド」を継続しておこな</p>

		い、ほかの受験者と合わせて募集定員を上回ることができた。次年度 2 歳児プレスクール「ぴよぴよクラスセカンド」募集でも多くの希望者がある状況である。
(3) 教育目標達成に向けて	B	○オリジナルのループブック評価は年度の始め、中間（10月後半）、3月の3回行い、カリキュラムマネジメントに活かすことを目標としているが、現在はまだ全保護者に提示するなど有効活用には至っていない。今後は評価後に学年間で再考し、次年度への引継ぎに活用することを目指す。幼稚園としては珍しいループブック評価をオリジナルで策定し実施していることは園児募集においても当園の強みとして告知できている。 ○教員研修では専任、契約補助教員を含む全員での研修と、専任のみの研修会、各個人での研修及び府中市幼稚園協会主催の研修など実施、参加し、各教員のレベルアップ及び共通理解に有意義であった。今後も幼稚園教諭としてのスキルアップ及び幼児、保護者理解に有効な研修会を継続して実施していく。
(4) 心の教育	A	○保護者アンケートにおいて「園生活において小動物（熱帯魚・小鳥など）を身近に感じるようになったか。」は満足度 71%とおおむね満足しており、次の「園はお子様に命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝えられていると思いますか」は満足度が 89%と高かった。
(5) 子育て支援	A	○3歳児からの入園に向けて、年間 2-3 回固定メンバーの 2 歳児親子・ぴよぴよクラスセカンドの需要は高く、保護者は優先的な入園、円滑な保護者関係構築や入園後早期に園生活に慣れることなど期待していることがうかがえ、年度末のアンケートでは入園に対する不安が親子ともに無くなったというコメントが多かった。 ○地域の子育て支援を目的としたひよこクラスは好評であるが、専任教職員の負担を考え次年度は回数を減らして楽器に一回の開催とする。 ○1歳児親子・ぴよぴよクラスファーストは幼稚園入園の 2 年前の親子をターゲットに各回申し込みとして行っているが、保護者が園を選ぶツールとなっている。
(6) 教育現場における園児のリスク管理及び個人情報の管理体制強化	A	○保護者アンケートによると「火災・地震・防犯の訓練実施」と「個人情報保護に努めていること」を知っているかとの問いには前者 100%、後者 95%と周知の徹底がほぼなされていた。同様に専任教員へのアンケートにおいても同様の結果であった。

3-2. 評価項目の達成及び取組状況(学年毎の計画)

評価項目	結果	理由
(1) 年少①自分の思いを言葉で相手に伝え、他者との関わり方を知る。	A	ループブック 4月 2.09→年度末 2.74 クラス内での個人差が大きかったため、進級当初はスキンシップを図りながら個々の発達段階を把握し、補助教諭とも連絡ノートを活用し、気になる子の声掛けや関わり方など、同じ目線で関わりが持てるよう努めた。○遊びの中でのトラブルでは、自分の気持ち

		を言葉で伝えられず、手を出したり、思いを相手にぶつける姿が多くみられたため、1年間を通して繰り返し保育者が間に入り、言葉を補いながら自分の気持ちを伝える方法を知らせていった。〇クラスの中で安心して過ごせる環境を整えることで、3学期には簡単な集団遊びを楽しんだり、自分たちで解決しようと意見を出し合う姿も見られるようになった。担任もその様子を見守りつつ、最終的に補助として間に入ることもまだ多いが、自分の意見を伝えたり、聞いてほしい気持ちは個々に成長する姿を一年間で見る事が出来た。
年少②友だちとの共同活動を通し、友だちと一緒に楽しむことや喜びを知り、進んで取り組もうとする	B	ルーブリック4月 2.36→年度末 2.73 クラス内で安心して自分を出しながら過ごせるよう、保育の中で保育者が率先して一人ひとりの良さを言葉で表し、互いに認め合える環境づくりに努めた。毎日の手遊びや季節の歌など友だちと一緒に楽しむことを積み重ね、子どもたちの興味・関心に合わせて簡単なルールのある遊びを無理なく保育の中で取り入れることで、3学期には人前で友だちと一緒に表現や踊りを楽しむことが出来るようになってきている。異年齢との触れ合いも大きく、他学年の発表会の踊りを近くで見たり、お兄さん・お姉さんが楽しそうに活動する姿に憧れを抱くことで、真似してみたいという思いも強くなっていったようである。3学期は戸外でマラソンを全員で楽しんだり、戸外あそび中に無理なく運動遊びが楽しめるようミニ平均台などを取り入れてサーキットごっこなどを行い、興味・関心を持つ機会を設定した。
年少③体験から得た発見、喜び、感動を友だちや保育者と共有し、新しいことに興味・関心の幅を広げる	B	〇身近な自然（昆虫や植物）に興味・関心が持てるよう、1学期はダンゴムシや食育活動のトマト・キュウリの成長記録を子どもたちの日頃目につきやすい保育室内に掲示をした。活動内容をクラス通信などで知らせたり、保護者会や保育参観日にクラス内の掲示を目にする保護者も多く、活動内容を知ってもらえる良い機会になった。〇2学期の後半からはチューリップの球根やヒヤシンスの水栽培を行ったが、日々の成長記録を子どもたちと一緒に行うことで、成長の段階を理解し、子どもたちの方から成長に気づいて担任や周りの友だちに喜んで知らせたり、自主的に水やりをし、大切に育てようとする姿も育ってきた。その他、季節ごとに学苑内を散歩し、木の実や葉っぱなど園にはない自然に触れる機会を設定することで、季節ごとの変化に気づき、見たり、触れたりすることで個々に興味・関心を広げる結果につながった。
(2) 年中①遊びを含む様々な活動の中で自ら考え新しいことを創造し、表現する力を伸ばす	B	ルーブリック4月 2.4→年度末 2.88 集団での遊びやルールのある遊びを通して友だちとのかかわりも深まり、友だちからの刺激を受けて新しい遊びに興味を持ったり、発展させていくことができるようになった。また、たくさんの材料を提供することで自分たちで遊びを考えたり、工夫する姿も見られるようになった。自発的に遊びを進めることができるようになったり、ルールを作ったり遊びを変えることができる子どもも少しずつ増えてきている。

<p>年中②困っていたり、泣いている友だちに思いやりを持って接する</p>	<p>B</p>	<p>ルーブリック4月 2.46→年度末 2.70 担任が子どもたちに声をかけている姿を見ている子が多いので、真似てみたり、泣いている子に対して気づき、進んで声をかける姿も多く見られるようになった。クラスや学年の友だちだけでなく、園庭で他学年の子が泣いていたり転んでいたりすると近くの職員に知らせたり、ひとりでは勇気が出なくても友だちと一緒に声をかけてみようとしたりすることもできるようになってきた。</p>
<p>年中③みなしずかで心を落ち着かせ、その後の話が最後まで聞ける</p>	<p>B</p>	<p>途中で目をあける、足をバタバタさせる、手を動かす等の行動が見られる子もいるが、多くの子がきちんと姿勢を正し、みなしずかをしようとしている。3学期には年長組になるという意識から小さい子の見本になろうとしたり、まわりに流されずに最後まで頑張ろうとする姿が見られた。一人一人が意識してできるようになり、歌詞も間違えずに歌えるようになってきた。みなしずか後も静かに話を聞こうとすることができるようになった。</p>
<p>(3) 年長①日々の生活の中での発見や気づきを友だちに発信し、新しいことを創造したり表現し合う意欲を伸ばす</p>	<p>A</p>	<p>ルーブリック4月 2.96→年度末 3.29 昨年度（年中時）のルーブリック評価が低いことから、目標の一つに設定した。自分でイメージしたものを表現しようとしたり、友だちと一緒にアイデアを出し合いながら活動をすすめる姿が、一年を通して多く見られるようになった。保育者は子どもたちから出た意見を取り入れ、子どもたちの要求に合わせた材料の準備、時間の確保、アドバイスをすることで、より実現に近づける援助をした。それにより、友だちの良さや考えを受け入れながら、認め合ったり尊重し合ったりしながら、水族館ごっこや人形劇、演奏会、ごっこ遊び等を楽しむことができた。 また今年度のルーブリック評価の平均点も上がり、成果が見られた。</p>
<p>年長②周りや協調し、相手の考えを共有して意欲的に活動する中でリーダーシップを発揮する</p>	<p>B</p>	<p>ルーブリック4月 2.22→年度末 2.83 遊びを提案し、中心となって遊びを進める場面が見られるようになり、運動遊び、英語遊び、絵画制作、縄跳び、相撲大会、マラソン、ドッジボール等様々な活動の中で、自分の得意分野で自己発揮したり、挑戦し、互いの良さを見つけ、認め合うことができるようになった。</p>
<p>年長③小学校進学に向けて円滑な移行を目指し学びに向かう力を育てる</p>	<p>B</p>	<p>スムーズな小学校就学への移行を目指し、一年間を通して基本的な生活習慣の再確認、自ら意識して生活する環境作りを心掛けた指導をしてきた。 年長児として活動内容を把握したり、時間を意識しながら活動に取り組んだり、自分なりに見通しを持ちながら生活する姿が見られるようになった。 卒園に向けての活動の中では、自分たちで意識して話を聞いたり、活動に意欲的に取り組むことができた。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	○保護者アンケート、教員へのアンケート結果から目標はおおむね達成されており、保護者から評価されていると考えられる。しかしルーブリック評価の活用、一貫教育の推進については達成されていないため。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
明星小学校との連携および就学前教育の充実に向けて	明星小学校の魅力的な取り組みを紹介できる体制の構築・連携の強化、および就学前教育の充実に向けての計画を策定していくことが必要。
ルーブリック評価の有効活用	年3回の実施により、1年間の園児個人、クラス及び学年ごとの平均値をグラフ化し、年度末に学年の特性、成長が項目ごとに見えるようになって来ている。しかしその結果を次年度（特に年中少）に継続し、新たな学年の教育目標に落とし込むまでに至っていない。今年度の結果を踏まえ、卒園時に平均値3.0を目標にカリキュラム作成に活かすことが望ましい。

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。